

シンポジウム終了後、
下記URL（チャットにも記載）
もしくは、QRコードから
アンケートにご回答下さい。
ご協力をよろしくお願いいたします。

<https://forms.gle/EgvgQyHi8KBPArC9>



3月14日（火）
12:20～13:10
2階第3会場
Room B-2

この20年の研究者環境の変遷から考える 未来社会へのイノベーション ー今我々に必要な意識改革ー

1. 無意識のバイアスのフィルターを外してみよう！

ー2部構成講演ー

第1部演者 大坪久子
元日本大学 薬学部薬学研究所



第2部演者 裏出令子
京都大学 複合原子力科学研究所



2. 研究者社会における男女共同参画の 実態と意識の20年間の変遷

演者 志牟田美佐
東京慈恵会医科大学 薬理学講座



この20年の研究者環境の変遷から考える 未来社会へのイノベーション

ー今我々に必要な意識改革ー

男女共同参画学協会連絡会の概要

2002年：男女共同参画学協会連絡会準備会開催

2002年：14学協会による男女共同参画学協会連絡会設立集会（化学工学会，高分子学会，日本宇宙生物科学会，日本植物生理学会，日本数学会，日本生物物理学会，日本生理学会，日本天文学会，日本分子生物学会，日本動物学会，日本化学会，日本女性科学者の会，日本物理学会，応用物理学会）

2020年8月：一般社団法人へ移行

（一社）男女共同参画学協会連絡会組織図

2023年

個人
会員

正式加盟
(54学協会)

オブザーバー加盟
(66学協会)

活動呼びかけ
周知
情報交換

運営委員会

幹事学会（理事・事務局）

各種ワーキンググループ

主な活動

科学技術系専門職の男女共同参画実態調査
(通称：大規模アンケート)

シンポジウム

加盟学会の活動調査

提言・要望活動

女子中高生の理系選択支援

大規模アンケートと提言・要望活動の目的と意義

- ・ 科学技術専門職の実態把握と課題の抽出しデータに基づいた提言・要望活動書を作成
- ・ 科学技術基本計画、男女共同参画基本計画事業に提言・要望を反映させる
- ・ 継続的な定点調査により科学技術専門職の実態や意識の追跡し、施策の反映も調査

この20年の研究者環境の変遷から考える 未来社会へのイノベーション ー今我々に必要な意識改革ー

研究者社会における男女共同参画の 実態と意識の20年間の変遷

志牟田美佐

（東京慈恵会医科大学 薬理学講座）

日本生理学会男女共同参画推進委員

男女共同参画学協会連絡会

アンケート設問設定WG・提言要望WG委員

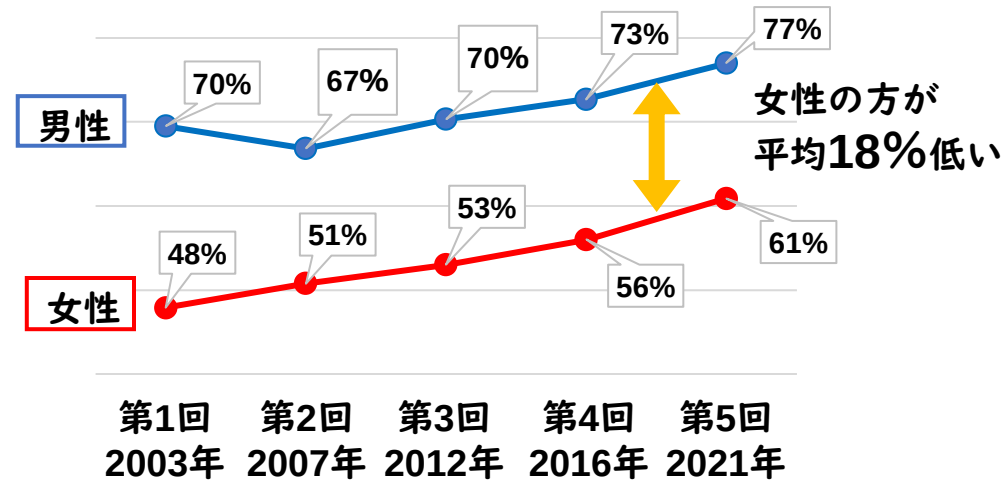


大規模アンケートから抽出された課題

ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 その1.

(2003年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

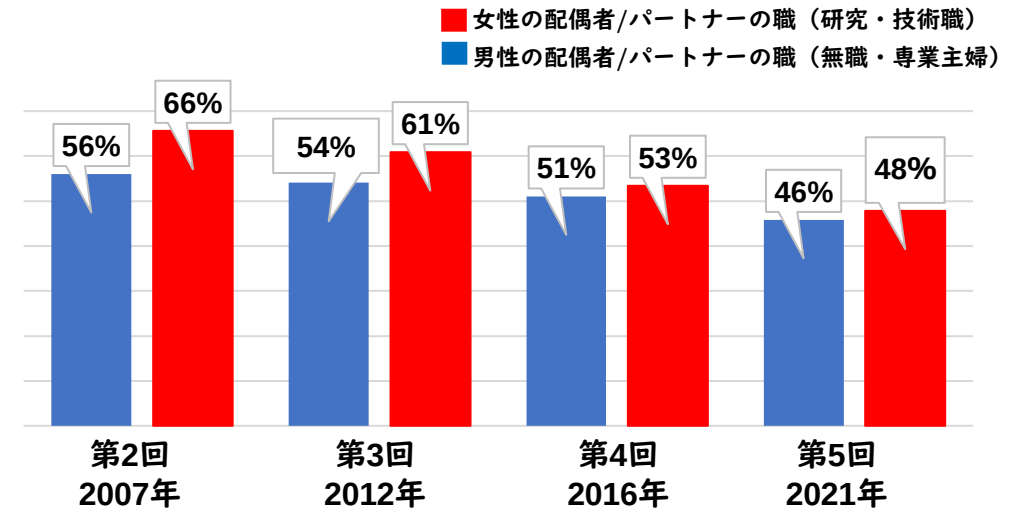
配偶者/パートナーを有する者の割合



第1回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

配偶者/パートナーを有する割合は、第1回調査以降、平均して女性は男性より**18%低い**

配偶者/パートナーの職



第2回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

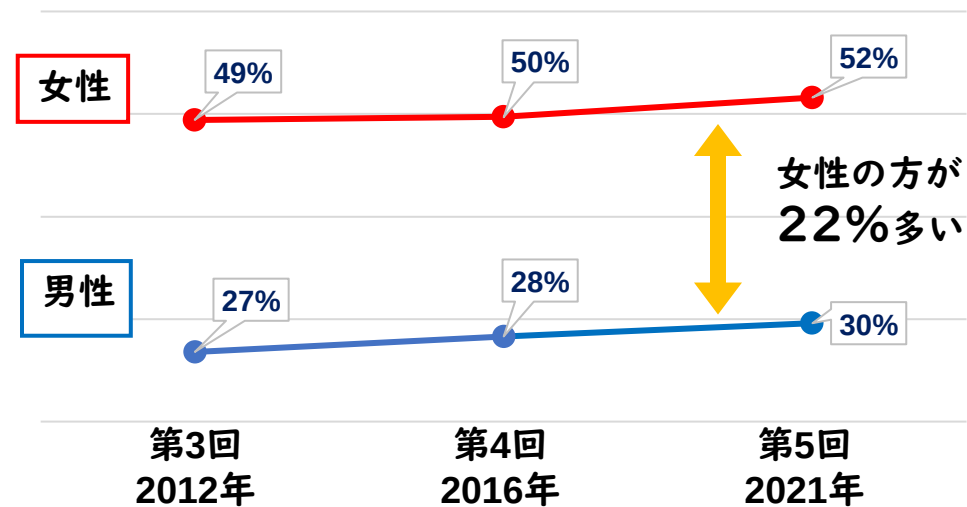
- ・ 男性の配偶者/パートナー（妻）の職は、約50%が無職（専業主婦）。
- ・ 女性の配偶者/パートナー（夫）の90%以上は有職者で、その約5割が研究職・技術職（同業者）

大規模アンケートから抽出された課題

ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 その2.

(2012年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

職の都合により別居を経験した割合



第3回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

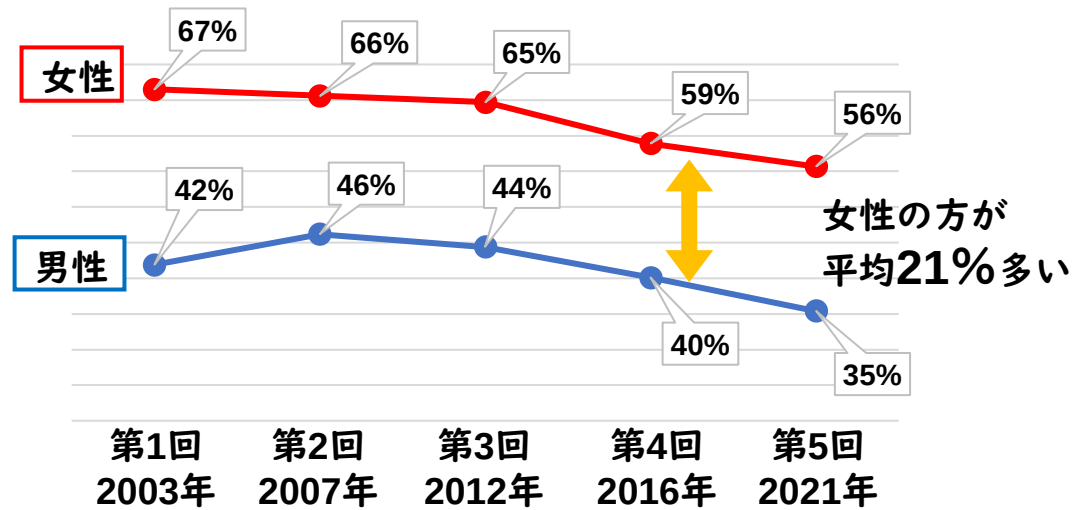
配偶者/パートナーを有する男性の約30%、女性の約50%に職の都合による別居の経験があり、男女ともにその割合は微増している

大規模アンケートから抽出された課題

ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 その3.

(2003年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

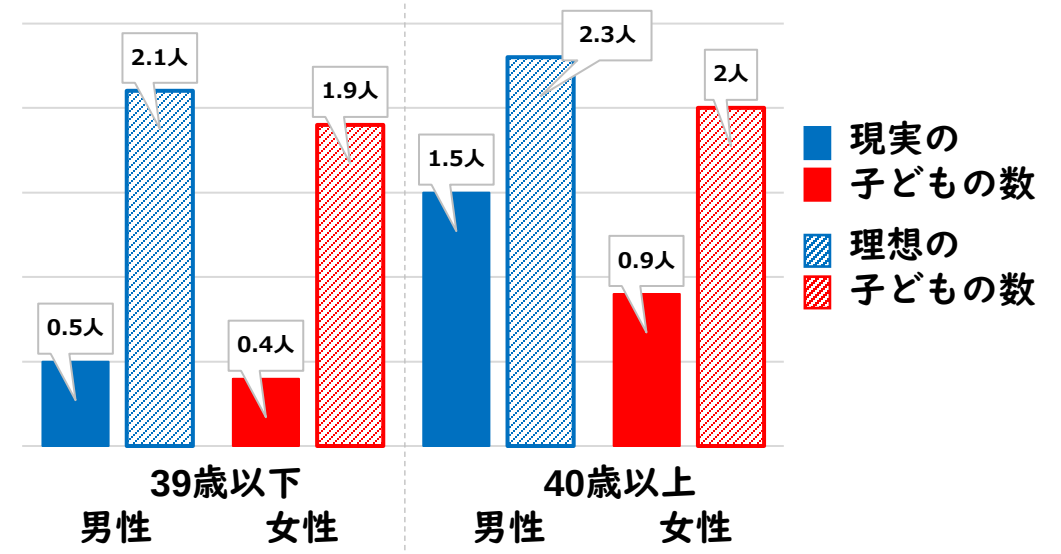
子どもがいない回答者の割合



第1回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志半田美佐が作成 (2022年)

子どもがいない割合は、第1回調査以降、女性は男性より平均して21%多い。

子どもの数の現実と理想 (第5回2021年)



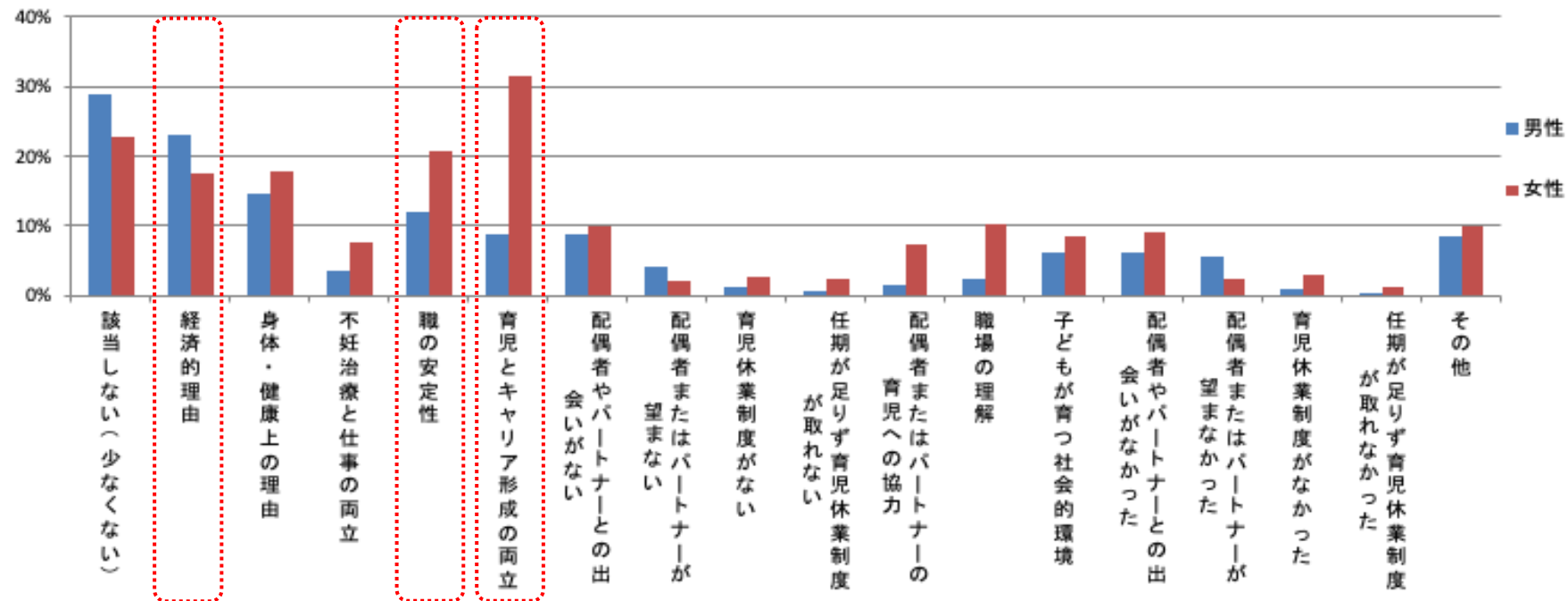
子どもの現実の数と理想の数は男女ともに経年変化はほとんどないが、理想と現実の乖離は女性で大きい。

大規模アンケートから抽出された課題

ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 その4.

(2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

子どもの数が理想より少ない理由（複数回答）（第5回2021年）

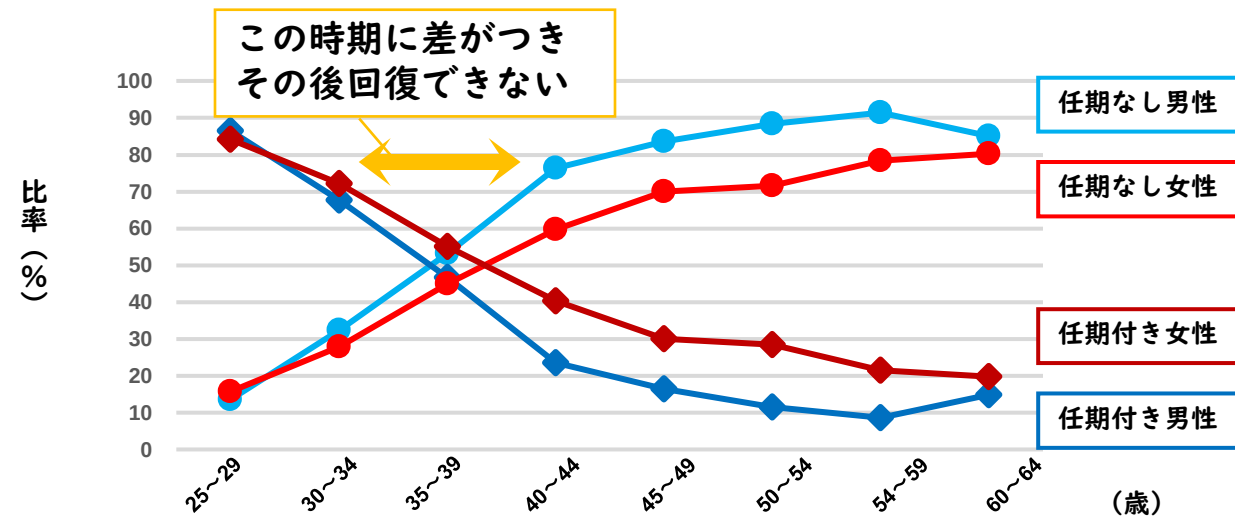


子どもの数が理想より少ない理由は、男性は「経済的理由」が23%、女性は「育児とキャリア形成の両立」が32%と最も多い。第5回では男女ともに「職の安定性」が、以前より順位が上がっている。

大規模アンケートから抽出された課題：任期付き研究者の現状

(2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

年齢別雇用形態 大学・高専等（第5回2021年）
（単数回答）

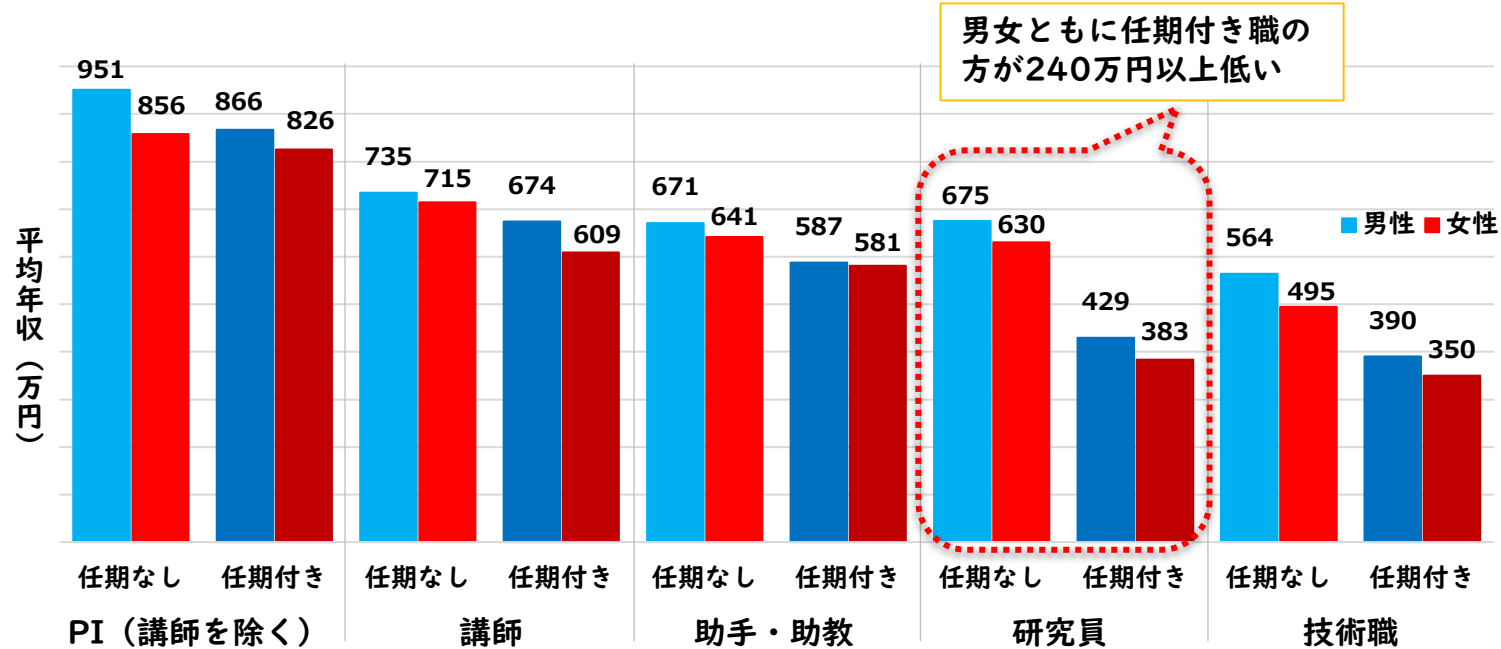


任期なし職の割合は30歳代で男女差が生じ、女性は男性より約5年遅れて増加。さらに、女性の方が任期なし職が少ない状況はその後も継続する。

大規模アンケートから抽出された課題：任期付き研究者の現状（年収）

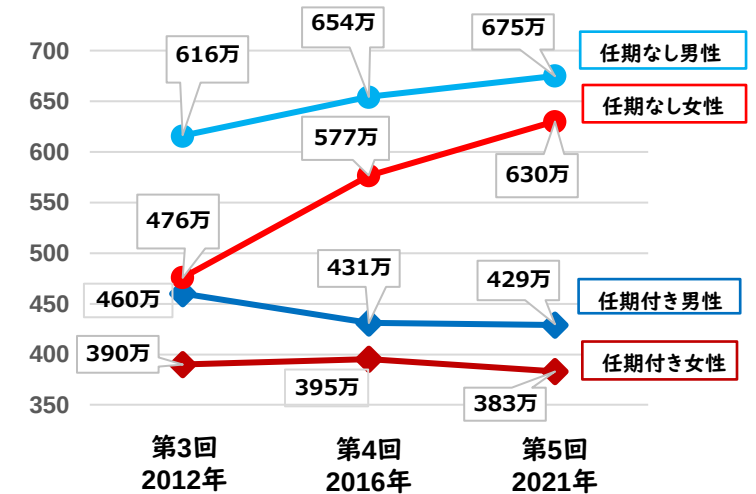
（第3回（2012年）～第5回（2021年） 大規模アンケートから）

大学・高専/研究機関の雇用形態と平均年収（第5回2021年） （役職・男女別、在職場時間40時間/週以上のみ）



- ・ 第3回調査（2012年）以降、いずれの職位においても、任期付き職は任期なし職に比べて平均年収が低く、特に研究員でその差が顕著である。
- ・ 男女間の比較では、職域や雇用形態にかかわらず、依然として女性の方が年収は低い。

大学・高専及び研究機関に所属する研究員の平均年収の経年変化

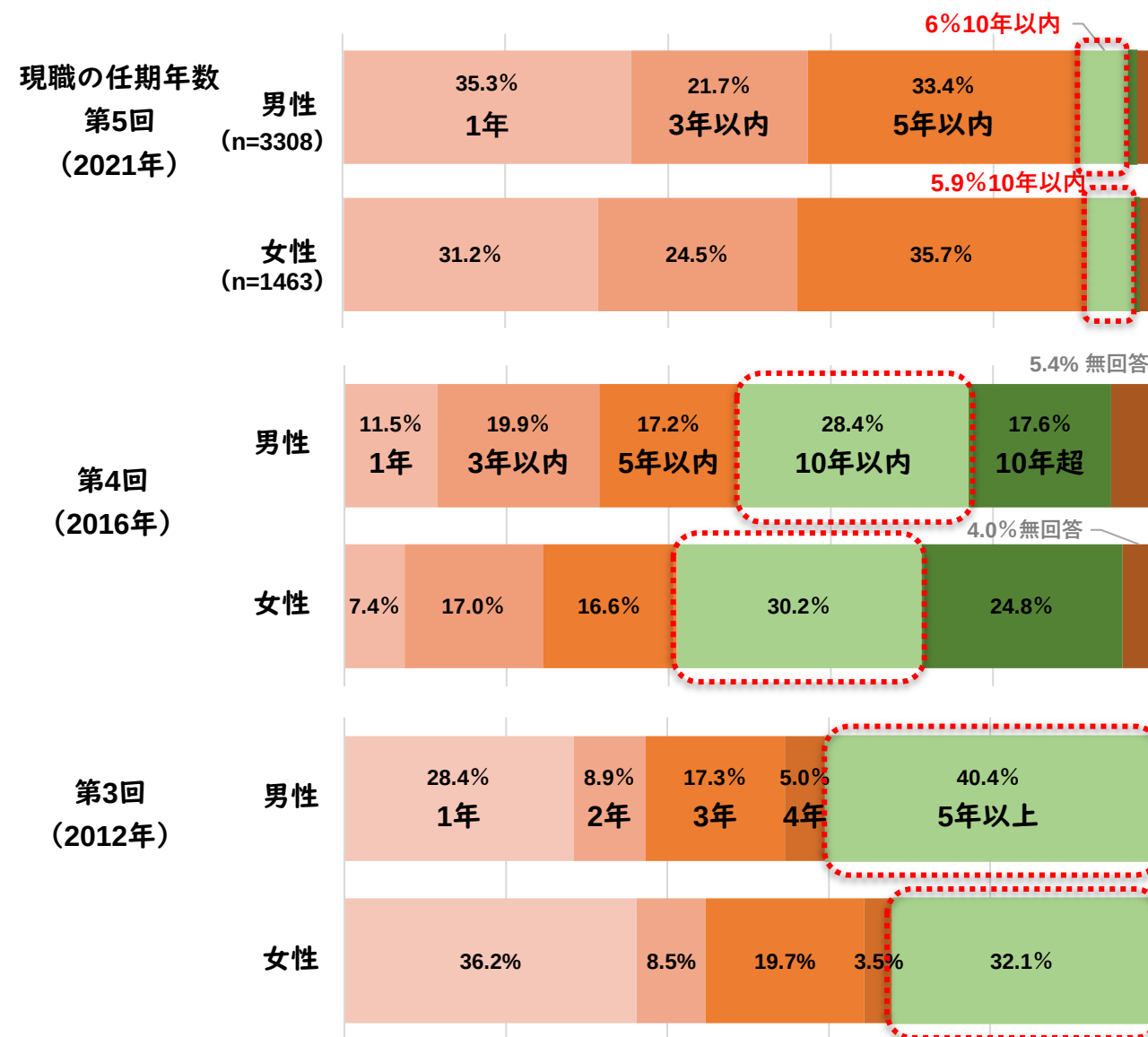


第3回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成（2022年）

任期付き研究員のみ平均年収 の経年的な減少がみられる

経年比較で明らかになった任期付き研究者における雇い止めの現状

第3回（2012年）～第5回（2021年）の比較



- 任期年数が5年以下の割合が増加

第4回調査（2016年）男性48.6% 女性41.0%

第5回調査（2021年）男性**90.4%** 女性**91.4%**

- 任期年数5年～10年以内の割合が激減

第3回調査（2012年）では男女ともに5年以上が最多（3～4割）、第4回調査では10年以内が最多（3割）。しかし、第5回調査では男女ともに**10年以内が6%に激減**。

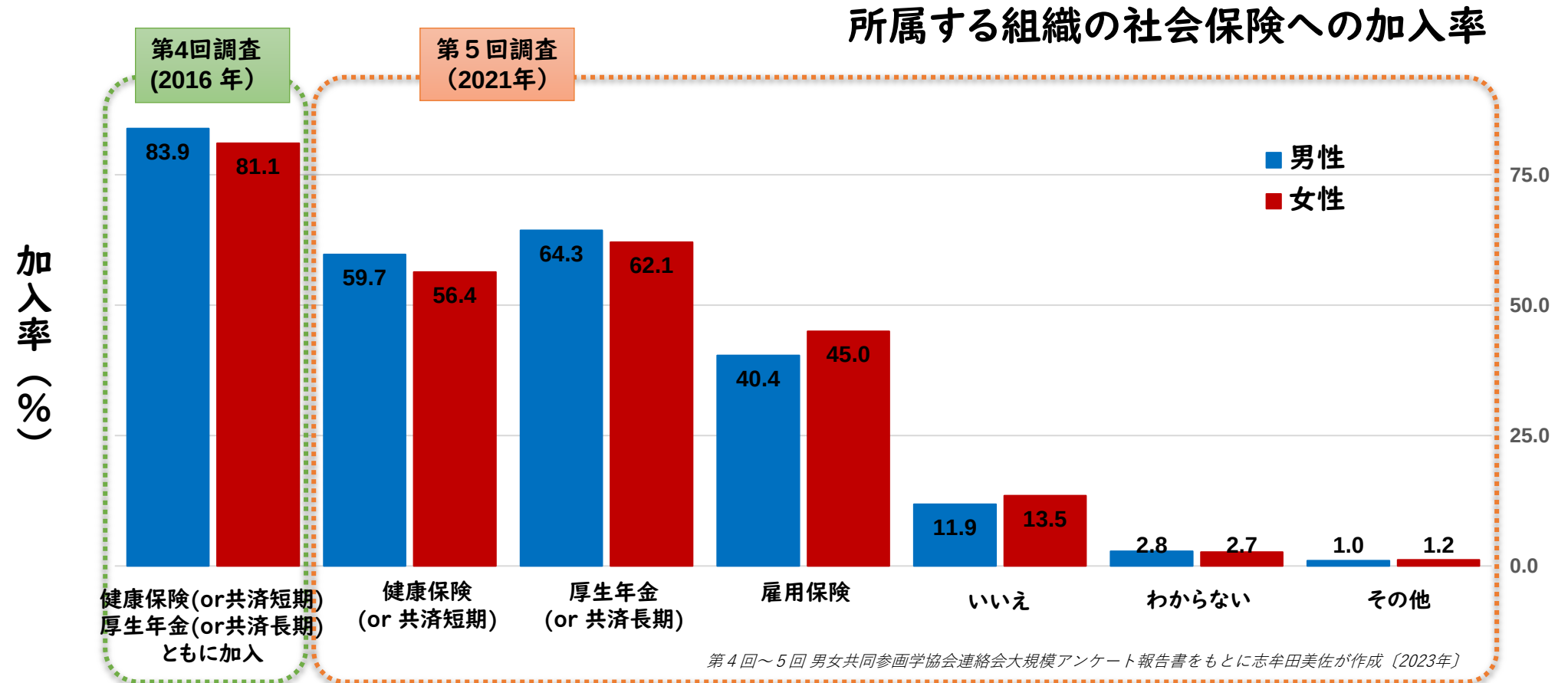
この減少は、改正労働契約法（無期転用ルール等：平成25年4月1日施行）により、5年または10年を越えての非正規雇用が禁止されたことに伴うものと思われる。

研究者は一朝一夕には育ちません！

即戦力となる研究者の減少は、我が国の研究力の低下に直結します。

大規模アンケートから抽出された任期付き研究者の現状（社会保険）

第4回（2016年）～第5回（2021年）の比較



- ・ 第4回調査（2016年）と比較して、所属する組織の社会保障制度が適用されている割合が減少している
- ・ 雇用保険に加入している任期付き研究者の割合は5割に満たない

20年間の研究者環境と意識の変遷のまとめ

- 女性が配偶者/パートナー、および子供を持ちにくい状況は変化していない
- 依然として職の都合による別居率は高く、微増している
- 子どもの数が少ない理由として「職の安定性」を挙げる割合が増えている
- 任期付き職の任期が、改正労働契約法以降、5年以下が急増し、5～10年を超える任期付き職が激減している
- 任期付きは任期無し職と比較して依然として年収は低いが、所属する機関の社会保障が適用されている任期付き職の割合が減少している
- 任期付き職の割合は女性の方が依然として多い